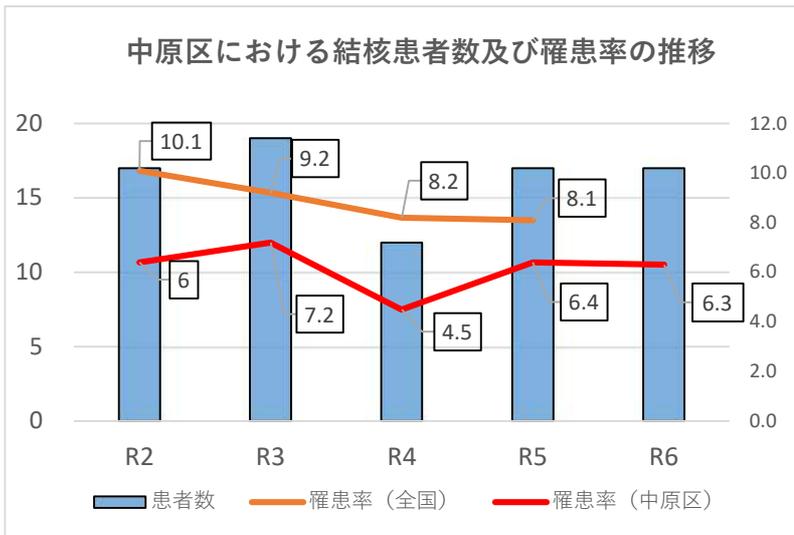


結核は過去の病気ではありません！

中原区における結核の動向

中原区での結核罹患率（人口10万人対）はここ数年減少しています。

結核は過去の病気と思われるがちですが、発見や診断の遅れにより、重症化してから診断される場合もあり、入院や治療が長引いたり、家族や職場での感染の拡大が心配される事例もあります。



【令和6年中原区結核発生状況】

(カッコ内は前年度の人数)

新規結核登録患者数 17名(17名)

うち喀痰塗抹陽性(※注1) 7名(7名)

※注1: 結核病棟への入院を要する状態

別掲)潜在性結核感染症(※注2) 18名(13名)

※注2: 感染はしているが発病はしていない患者

結核とはどんな病気？

結核菌が原因となって引き起こされる感染症です。結核の症状は2週間以上続く咳や痰、微熱・身体のだるさ、体重減少などがあり、風邪によく似ています。そのため胸部X線の実施機会がないと、本人の気づかない間に病気が進行し、痰の中に菌が排出される(=感染性が高い)状態になってから診断に至ることがあります。

健康を守るためには、日頃から身体の免疫力を維持する健康管理が重要です。風邪等の症状が続く時は早めに医療機関を受診しましょう。

早期発見・
早期治療が
大切です！



感染症法での定期健診と報告について

感染症法では、結核の発症により二次感染をおこす危険性が高い職業や集団感染の恐れがある施設等について定期的健康診断の実施とその報告を義務付けています。

早期発見・早期治療のため、年1回の職場・施設等での定期健診を必ず受けましょう。